

月○日午前×時、大宮駅上空をタカが3羽、東から南へ飛ぶ」といった程度でけっこうです。

何度も挑戦したけれど成果なし、という場合の方が多いかもかもしれませんが、あきらめないでください。せつかくタカの渡りに興味を持ったのですから、天覧山や中間平等など定期的に観察が行われている場所へ出かけて、観察に加わってみましょう。

これらの場所で長年観察を続けている方

の多くが「人手があれば、あの辺も見てもらいたいな」という望みをお持ちです。観察に頻繁に参加し、タカを見る目を養い、この望みに応えましょう。既知のポイントから新たなポイントを見つける、という繰り返しが、渡りのルート解明には大切です。しかし何よりも大切なのは、埼玉県の空を眺めてくれる人が1人でも増えることなのです。

* <http://www.gix.or.jp/~norik/hawknet/hawknet0.html>

オオハムとシロエリオオハムの識別

榎本 秀和(鴻巣市)

6月のある日、シロエリオオハム夏羽が1羽、なんと群馬県高崎市内の川にいる、と聞いた。行ってみたら幅3メートルほどの川だった。その川に架かる小さな橋の下を、嘴を水中に潜らせながら行ったり来たりしていた。夏羽のシロエリオオハムをこんなに間近に見るのは初めてだ。しかし、数メートルという超至近距離から見たこのシロエリオオハムの前頸光沢部分は緑色に見えた。近くにいた女性が「グリーンね!」とつぶやく声も聞いた。私と同様の感想だ。見る位置を変えたりしながら注意深く見直したが、やはり紫色には見えなかった。この日は曇天で日射しはなく、見え方に太陽光の影響はなかったと思う。家に帰って、当会会員の長嶋宏之氏が6月17日に撮影されたカラー画像を参照してみると、当該部位が紫色に見えるものと、紫に緑のグラデーションがかかったように見えるものがあり、「微妙」としか言いようがない。

夏羽のオオハムとシロエリオオハムの識別について、両者の前頸光沢部分の呈する色合いの違いを指摘する図鑑は多い。今回観察したこの鳥は全体的に見てシロエリオオハムに間違いないと考えるが、前頸光沢の色の見え方に関し、私は人間の視覚のあやうさを思うとともに、識別の決定打とは言い切れない

ということをあらためて感じた次第である。

最後に、今回の観察で印象に残った点を挙げる。①上下の嘴の基部に細いのはっきりした白い縁取り線がある。②足は濃い灰色だが指の先は肌色をしている。この2点を、図鑑には記されていない知見として今後の観察の参考に供したい。

※本件個体は、冬羽のころに放鳥されたものという話を聞いたが、それはどうだろうか。前記・長嶋氏の撮影された画像に、左右の翼の初列風切羽先端が不自然な形状に見えるものがある(下写真参照)。アビ類は秋晩くから春先にか



けて完全換羽する(個体差あり)ので、そのときは一時的に飛べなくなることが知られているが、本件個体は夏羽への換羽が終わった後に、何らかの事情で人為的に翼を切られて飛べなくなった(?)ものと思われる。「3週間ほど前に、養魚場のネットに引っかかっていたのを、翼を切って助け出した」という話も耳にしたが、このほうが事実に近いのではないかと。